



環境の取り組み

「2020年に向けたコープの環境基本政策」を定めました。

1960年代から1980年代の環境問題は、特定の地域や企業などを対象とする公害規制が中心でした。

しかし近年の環境問題は「地球温暖化」に代表されるように、

社会・経済システムの変更を含む地球規模の大きな課題となっています。

コープは組合員や時代の要求に沿って、1980年代から牛乳パック回収運動を始めました。

さらに1990年代には車両の低公害化に取り組むなど、

さまざまな環境問題に先進的に取り組んできました。

最近では各企業でも環境の取り組みが経営の重要課題として位置づけられ、消費者の意識が高まっています。

このためコープの環境活動にも多岐にわたる役割が求められるようになってきました。

今後もコープが組合員や地域にとって必要な存在であり続けるためには、

生協の特長を生かした持続可能な社会づくりへの貢献が不可欠です。こうした社会変化を踏まえ、

このたび、コープが今後の環境活動を行う際の基本的な考え方をまとめた環境基本政策を策定しました。

「2020年に向けたコープの環境基本政策」の構成



- I 温室効果ガスの総量削減
- II 商品事業の環境配慮の方向
- III 廃棄物削減・ゼロ化をめざした取り組み
- IV 組合員・地域の環境保全活動の取り組み
- V 地域諸団体・行政との関わり
- VI 環境関連法令の順守

「2020年に向けたコープの環境基本政策」はユーコープのホームページからご覧いただくことができます。

環境保全活動

MSC認証を受けた水産物の販売

コープでは限りある水産資源の保護と水産物の消費を両立させる方法の一つとして、MSC 認証を受けた水産物の取り扱いを進めています。MSC 認証は、漁獲方法に配慮した持続可能な漁業を認証する制度で、世界でも基準が厳しい認証として知られています。コープでは「CO・OPたらこ」(2009年5月発売)・「CO・OP辛子明太子」(同9月発売)に加えて、2010



CO・OPたらこ



MSC認証
マーク

年度、CO・OP紅鮭スモークサーモン切落としなど5種類をおうちCO-OPで提供しています。

エコストアの推進

2010年度に開店したコープかながわ秦野曾屋店とコープしずおか下野東店は、CO₂削減を進める省エネ型の環境配慮店舗です。店舗で排出されるCO₂の90%以上が電力消費によることから、消費電力の少ない設備の導入に努め、また屋根や駐車場照明への太陽光発電パネルの設置、自然光やLED照明の活用、飲料の冷ケースの夜間運転停止など、さまざまな工夫を採り入れました。これにより、従来の設備と比べCO₂排出量が削減できました。



省エネ設備を整えたエコストア

電気自動車を導入

2010年9月23日、コープかながわのおうちCO-OP横浜西部センターに、宅配センターでは初めての電気自動車(三菱自動車 i-MiEV)を1台、営業用車両として導入しました。

電気自動車は走行中のCO₂排出量がゼロで、発電時に排出するCO₂を含めて比較しても(※)、ガソリン車の約3分の1になります。神奈川県は電気自動車の普及に積極的で、特に横浜市は急速充電設備が普及し始めています。今後の導入は、充電施設の普及状況などを見ながら検討していきます。

※今回導入の車種での比較。ガソリン車は原油の採掘から走行までのCO₂排出量で計算。



電気自動車

BDFトラック13台を横浜西部センター(横浜市戸塚区)に追加導入



導入されたBDFトラック



BDF燃料の給油

コープでは、持続可能な社会づくりに貢献するため車両の低炭素化の取り組みを進めています。コープかながわでは、2010年度に、おうちCO-OPの宅配トラックを13台、BDF(バイオディーゼル燃料=店舗事業の廃食油が原料)トラックに切り替えました。現在、2カ所のおうちCO-OP宅配センターで計22台のBDFトラックが稼働しています。

トラックに使用するBDF燃料は、コープかながわの総菜加工施設のある40店舗から出る廃食油を、関東バイオエナジー株式会社(茨城県)で燃料用に精製したものです。1台のBDF車両が1,000 km走行するのに約250リットルのBDF燃料を使用しますが、植物由来の燃料であるため、植物が成長する過程ですでにCO₂を吸収しており、その量と燃焼して排出するCO₂とが相殺され、CO₂排出量はゼロと見なすことができます。

エコドライブの推進

2010年度、おうちCO-OPでは、6月の環境月間に合わせて「エコドライブ」に取り組みました。

運転中に「急加速や急発進を控える」「車両スピードを抑える」「アイドリングストップを行う」などの意識をドライバーが持ち続けることで、CO₂排出量の低減だけでなく、運転マナーの向上にもつながります。

機関誌「MIO」10月号でもエコドライブを紹介し、読者の皆さんに好評でした。



機関誌「MIO」で紹介

■お買い物袋削減の取り組みと、収益金の活用

全国でマイバッグ持参の意識が高まっていますが、コープかながわは1982年、全国の生協に先駆けて「お買い物袋持参運動」を始めました。「レジ袋の無料提供をやめて、できるだけムダを無くし、その分を組合員に還元する」取り組みとして、コープしずおか(1988年)、市民生協やまなし(1992年)へと拡大し、現在はご来店いただく9割以上の方がマイバッグやマイバスケットをお持ちになっています。

特に市民生協やまなしでは、2008年10月にレジ袋を原則廃止し、それ以来、お買い物袋持参率100%を維持しています。

また、コープは市や町と「レジ袋削減協定」を締結し、地域全体でのレジ袋削減にも貢献しています。

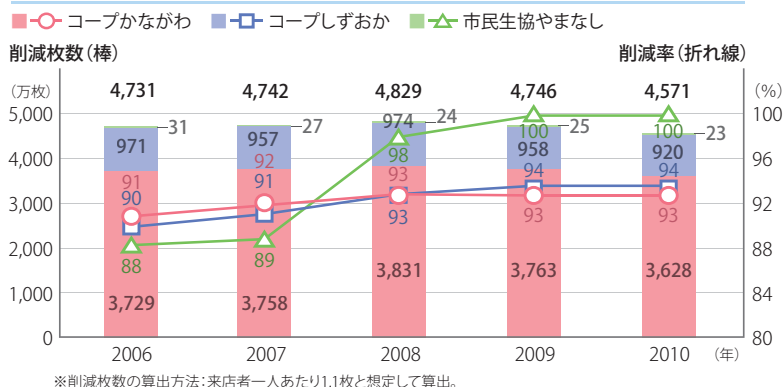
これらの取り組みにより、2010年度はコープ全体で約4,571万枚のレジ袋を削減することができました。

なお、1枚10円で販売しているレジ袋の収益金は、持続可能な環境型社会をめざすコープの取り組みや施策に活用しています。

■お買い物袋持参に関する行政との協定

コープかながわ	横浜市、川崎市、横須賀市
コープしずおか	静岡市、浜松市、富士市、掛川市、磐田市、袋井市、沼津市、藤枝市、長泉町
市民生協やまなし	山梨県

■お買い物袋(レジ袋)削減状況



■2010年度 レジ袋販売枚数

コープかながわ 2,673,013枚 コープしずおか 613,847枚

■2010年度 レジ袋収益金の活用状況

	(単位: 千円)		
	コープかながわ	コープしずおか	
収益(10円×販売枚数-原価)	20,150 ^{*1}	3,453	
活用内容	お買い物袋持参運動の推進(新規加入者へのエコバッグプレゼント)	3,753	1,519
	環境キャンペーン推進(「1日エコライフ」チャレンジシート作成、プレゼント費用など)	1,553	1,136
	リサイクル推進(透明容器回収案内など)	2,229	1,008
	店頭リサイクル推進(回収用ポリ袋)	3,631	-
	組合員環境活動支援(観察会、環境講演会、環境グループ活動支援、環境パンフ作成など)	3,734	534
	諸団体環境活動支援 ^{*2}	600	200

※市民生協やまなしでは、2008年10月からレジ袋を原則廃止(無料配布も販売もしない)しているため、収益はありません。

*1 2009年度の繰越金179万円を含みます。

*2 支援先 コープかながわ: (財)かながわトラストみどり財団、かながわ海岸美化財団/コープしずおか: NPO法人ラブ・ネイチャーズ、チーム: 絆の森いっぽんまつ、ゆめづくり市民の会、静岡県緑化推進協会

■「宮城県産かき」産地の植林活動を支援

コープでは、産地指定「宮城県産かき」の産地の海を守るため、周囲の山に広葉樹を植林している「石巻グリーングローブの会」を応援しています。広葉樹(ブナ・桜など)の林では、落ち葉が分解して腐葉土になります。そこに含まれるミネラル分が雨水とともに海に流れ出て、たくさんの生き物が生きることができる豊かな海をつくるのです。

コープでは2004年より生産者と共同で、かきの供給代金から1パックごとに1円を「石巻グリーングローブの会」へ寄付してきました。さらに、2010年度はCO・OP洗剤のメーカーの協賛を得て「CO・OPの洗剤を買って森を育てようキャンペーン(5月~10月)」を実施し、約44万円をお渡しすることができました。これまでの7年間で「石巻グリーングローブの会」に約158万円(約1,000本分の苗木代)を寄付しています。

東日本大震災では、植林をしている森は、ほとんど被害はあ

りませんでした。「石巻グリーングローブの会」のメンバーの皆さんの中で、立ち上げに関わったご夫婦がお亡くなりになりました。

メンバーの皆さんは、これからも海の栄養となるような森を育て、市民が集えるような環境をめざして活動を続けられるとことです。コープは、これからも応援していきます。



植林された広葉樹



CO・OPの洗剤を買って森を育てようキャンペーン(5月~10月)

廃棄物の削減

■リサイクルの考え方

コープのリサイクル活動は「限りある資源を大切に使う」という組合員の声により、1985年に牛乳パックの回収*からスタートし、その後も組合員の要望に応じてリサイクル回収品を増やしてきました。

コープでは、「リサイクルルートの設定」「回収の効果」「費用負担」「社会の要請」などを総合的に判断してリサイクルを推進していますが、可能な回収品目には限りがあります。そこで、並行して行政へ社会的なリサイクルシステムの充実化を要望したり、メーカーに容器包装の削減、回収の協力をお願いするなどの働きかけをしています。

* コープかながわは1985年、コープしずおかは1988年、市民生協やまなしは1991年にそれぞれ開始しました。

■リサイクル回収品

おうちCO-OP (宅配)では	牛乳パック、食品トレイ(発泡)、個人別セットポリ袋、お買物めも・チラシ類、注文書、卵パック
店舗では	牛乳パック、食品トレイ(発泡・透明)、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、小形充電式電池、ボタン電池

■透明容器の回収・リサイクルを開始

2010年6月より、店内で総菜を製造する店舗*に透明容器専用のリサイクルボックスを設置し、総菜の透明トレイ・ふたの回収を開始しました。回収した透明容器はリサイクル工場に送られ、素材ごとに自動選別機で分別の上、ペレット(溶かして粒状にしたもの)やフレーク(粉碎したもの)にし、再生容器・再生トレイに加工されます。



透明容器

2010年度の回収量は14

トンで、目標とした52トンを大きく下回りました。このため今後も継続的にお知らせを行い、組合員のリサイクル意識の向上を図っていきます。

* 透明容器の回収を行っている店舗は、2011年3月現在、コープかながわ39店舗、コープしずおか20店舗、市民生協やまなし1店舗

■店舗でノントレイの精肉の供給を開始

2010年8月、一部の店舗*で、精肉をノントレイ・袋入りで販売する取り組みを始めました。対象商品は、組合員に人気の高い、コープの産地指定「はぐみ鶏」若鶏モモ肉1枚と、産地指定「茶美豚(チャーミーポーク)」小間切れ約200gの2品です。売場にトレイ入り商品と隣り合わせて陳列し、好きな方を選べるようにしています。

また、コープの宅配事業「おうちCO-OP」でも、可能な限りトレイを使わないパッケージ形態で精肉をお届けしています。たとえば、お肉の鮮度と品質を守るフレッシュパックの場合、パック中の空気を静菌作用のある二酸化炭素の割合を高めた気体に置き換えて密封包装しています。

* 店内に精肉加工施設を持つ店舗(2011年3月現在、コープかながわ11店舗、コープしずおか1店舗)



ノントレイ・袋入りの精肉



精肉のフレッシュパック

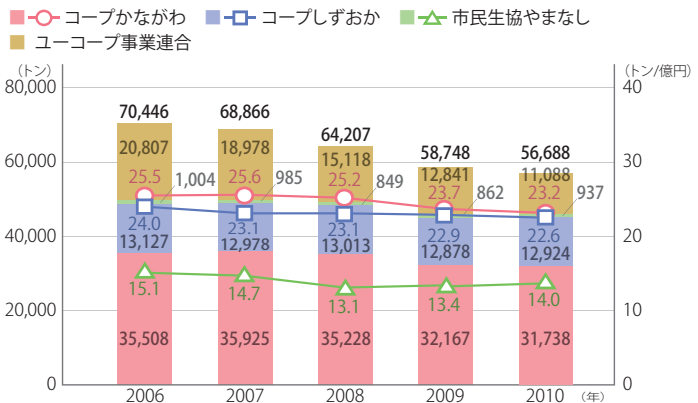
■2010年度のリサイクル実績

2010年度は1年間で約7,784トンの資源をリサイクルすることができました。全体では、2009年度に比べて0.3%減少しました。行政回収などのリサイクルがすすみ、店舗での回収量は減っていますが、宅配では紙類、ポリ袋の回収量が増えています。

地球温暖化防止自主行動計画の推進

2004年度に、日本生協連を主体とする生協の地球温暖化防止自主行動計画を策定しました。3カ年計画(2009~2011年度)に沿って4生協統一で電気・ガス・車両燃料や廃棄物の削減に取り組んだ結果、2010年度は1億円あたりのCO₂排出量を28.3トンと2002年度比で20%削減し、2010年度の目標(2002年度比11.9%削減)を達成することができました。


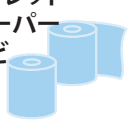
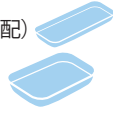







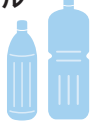
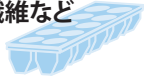
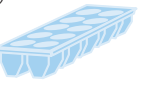


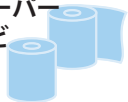




■CO₂排出量の推移



※折れ線グラフは1億円あたりの数値です。
※4生協のCO₂排出量は数値を四捨五入しているため、全体の合計数が異なる場合があります。

2010年度リサイクル実績

■ コープかながわ ■ コープしずおか ■ 市民生協やまなし

品目	ルール	回収量の推移	回収率	節約効果	再生品
牛乳パック (店舗・宅配) 	1.洗う 2.開く 3.乾かす	(年) (単位:万枚) 2007 1,336 397 49 1,782 2008 1,142 381 57 1,580 2009 1,175 366 44 1,585 2010 1,087 340 41 1,468	35%	立ち木 8,633本分	トイレット ペーパー など 
発泡スチロール トレイ (店舗・宅配) 	1.洗う 2.乾かす	(年) (単位:万枚) 2007 2,244 697 21 2,962 2008 2,284 710 23 3,017 2009 2,077 681 22 2,780 2010 1,910 719 16 2,645	58%	原油 38.1万ℓ分	トレイ、 植木鉢 
透明容器 (店舗) 	1.洗う 2.乾かす 3.ラベルなど をはがす	(年) (単位:万枚) 2007 2008 2009 2010 58 51 0.2 110	3%	原油 3.4万ℓ分	原料(ペレット) など 
スチール飲料缶 (店舗) 	1.洗う 2.乾かす	(年) (単位:万缶) 2007 50 49 0.1 99 2008 48 49 0 97 2009 45 48 0.1 93 2010 40 36 0.1 75	83%	12世帯の 1年分の 電気使用量	建築材など 
アルミ飲料缶 (店舗) 	1.洗う 2.乾かす 3.つぶす	(年) (単位:万缶) 2007 201 257 0.1 458 2008 201 226 0 427 2009 210 226 0.3 436 2010 222 262 0.1 484	32%	451世帯の 1年分の 電気使用量	サッシや アルミ缶 など 
ペットボトル (店舗) 	1.洗う 2.乾かす 3.つぶす	(年) (単位:万本) 2007 315 283 3 601 2008 298 279 3 580 2009 290 253 2 545 2010 296 274 3 573	47%	原油 4,536.2万ℓ分	卵パック、 水切りごみ袋、 繊維など 
卵パック (宅配) 	ラベルを 取って 各々重ねる	(年) (単位:万パック) 2007 72 34 15 121 2008 75 43 15 133 2009 68 40 12 120 2010 45 44 11 100	16%	原油 281.0万ℓ分	卵パックなど 
宅配注文書 (OCR用紙) 	注文がない 時でも ×して出す	(年) (単位:万枚) 2007 1,133 686 105 1,924 2008 1,453 877 143 2,473 2009 1,230 733 117 2,080 2010 1,264 746 138 2,148	84%	立ち木 5,800本分	トイレット ペーパー など 
お買物めも・チラシ (宅配) 	お買物めも、 チラシだけ	(年) (単位:万冊) 2007 507 355 89 951 2008 528 399 79 1,006 2009 584 406 90 1,079 2010 570 415 93 1,077	45%	立ち木 124,507本分	トイレット ペーパー など 
個人別セット用 ポリ袋 (宅配) 	1.紙シールを 切り取る 2.たたむ	(年) (単位:万枚) 2007 1,131 779 107 2,017 2008 1,143 863 121 2,127 2009 1,501 1,361 139 3,000 2010 1,723 1,292 153 3,168	32%	原油 45.8万ℓ分	マーカーペン、 ハンガー など 

*回収量は小数点以下を四捨五入しているため、3生協の合計数が異なる場合があります。